View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Kwansei Gakuin University Repository

Mastery for Serviceの実践

今　井　悠　介

関西学院創立125周年、お祝い申し上げます。大学を卒業してから６年。今、私は公益法人の代表者として、東北の子どもたちの支援を仕事としています。それは、本学のスクールモットーである“Mastery for Service”を実践することでもあります。

今年の７月、厚生労働省は日本の子どもの貧困率が16.3%と、過去最悪を記録したことを発表しました。「日本の子どもの６人に１人が貧困ー。」先進国日本において、信じがたいことかもしれませんが、紛れもない事実です。災害や家庭の事情によって、貧困家庭で育つ子どもたちは、十分な学びの機会を得ることができません。そのような子どもたちは、低学力・低学歴に陥り、将来就業において困難を強いられます。そして、貧困は世代を超えて連鎖していきます。

東日本大震災後、「子どもの貧困」の問題が深刻化する東北において、私は関西学院を卒業した仲間とともに公益法人を設立し、貧困家庭の子どもたちの学びの機会を保障するための取り組みをはじめました。この公益法人の母体になったのは、20年前の阪神・淡路大震災を原点に、関西学院の学生が立ち上げたＮＰＯ法人です。阪神・淡路大震災当時、学生たちが、被災した子どもたちの学習支援を行いました。その後も活動は後輩たちに受け継がれ、今でも関西学院の学生らが中心となって、阪神地域の子どもたちの教育支援活動を継続しています。私は2005年に本学に入学し、この活動に出会いました。

学生時代の活動や今の仕事において、壁にぶち当たり、自分の非力さを認識するたびに、「子どもたちを支えるためには、自分自身を高めなければならない」という思いを強くしました。それは“Mastery for Service”という言葉の意味を深く考える時間でもありました。道半ばの私は、まだこの言葉の意味を理解しきれていません。でも、実践を通じて気づいたことがあります。それは、「人の幸せは、誰かに必要とされることによって、得られるものだ」ということです。そして、それは“Mastery for Service”を実践した先にこそ、存在するのだと信じています。実践はこれからも続きます。

（公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事）